

ランゲージスペース参加向上を目的としたアンケート結果 —ランゲージスペースのスケジューリングに関する一考察—

長谷川 由美¹, 服部 圭子² 坂田 直樹³

要旨

ランゲージスペース（以下 LS とする）の学生参加率の向上を目的とし、2つの調査を行った。1つは学生を対象にした LS に参加可能な曜日・時間帯に関するオンラインアンケート、もう1つは履修登録状況のデータによる空き時間の調査である。両調査結果の相関係数がある程度高かったため、今後は履修状況の調査を行うことで、学生の参加可能な時間帯を割り出すことが可能であることがわかった。また、1限・5限を中心に学生がLSに参加可能であることが判明したが、多くの学生が遠方より通学している現実を鑑みると、これらの時間帯にLSを実施することが本当に参加者の増加を促すかどうかという点においては、今後さらに調査を重ねる必要がある。今回の調査結果を踏まえて、今後も様々な学生が参加しやすい時間帯にLSを設定しすることを検討して行くとともに、平成26年4月度からの1年生対象科目である「総合英語1、2」と「基礎英語1、2」受講者へのLS参加必修化に備える必要がある。

キーワード：ランゲージスペース、アンケート調査、参加向上

1. 結論

生物理工学部には、将来、研究者を目指す学生と、企業への就職を目指す学生がいる。どちらも最新情報の取得や専門分野での知見を発信するための英語力が必要とされている。それらを念頭に、筆者ら教養・基礎教育部門の英語担当教員は、生物理工学部における英語の授業内容の吟味と開発の努力を継続的に行っている。それと共に、学生たちがグローバル化する世界や多文化・多言語化しつつある日本社会で活躍するであろうことを考えると、大学時代にさまざまな異言語・異文化に触れたり、外国語でのコミュニケーションを体験したりすることによって、異なる背景を持つ人々への理解や知識を深めることも重要であると考え。しかし、キャンパス内には、日常的に接する留学生数は非常に少ない。またその立地条件から、近畿大学本部キャンパスで行っている「パートナーシップ」や「ことばのフェスティバル」など、留学生と日本人学生が交流する催しに参加することも難しい。そして、語学センターや、「英語の遊び場」として開始した「英語村 E³(イーキューブ)」を利用することも容易ではない。そこで、平成22年度から、生物理工学部では、授業外の言語文化活動として、B. O. S. T. ランゲージスペース (Language Space:以下、LS) を開始した。この活動は、文部科学省(2011)の言うグローバル人材¹の養成だけではなく、欧州評議会が掲げる複文化・複言語主義²(細川他 2010)に基づいた教育を念頭に置いている。また、近畿大

原稿受付 2013年12月2日

1. 近畿大学生物理工学部 教養・基礎教育部門, 〒649-6493 和歌山県紀の川市西三谷 930
2. 近畿大学生物理工学部 教養・基礎教育部門, 〒649-6493 和歌山県紀の川市西三谷 930
3. 近畿大学生物理工学部 教養・基礎教育部門, 〒649-6493 和歌山県紀の川市西三谷 930

¹文部科学省(2011)「産学官によるグローバル人材の育成のための戦略」産学連携によるグローバル人材育成推進会議最終報告
http://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/detail/_icsFiles/afieldfile/2011/06/01/1301460_1.pdf

²欧州共同体では、各個人がコミュニケーションの目的のために複数の言語を使用し、複数の文化的経験を駆使できるという能力獲得を目指すという言語政策がとられている。

学の外国語教育が掲げる「国際社会に対応できる英語をはじめとする外国語によるコミュニケーション能力を養うとともに、日本文化と外国文化の理解を通じ、国際感覚を高め、相互の個性を尊重し、信頼し合う精神を養うこと」³という目的に合致するものであると考えている。

具体的なLS活動の詳細は服部(2012)でも紹介しているが、(1)外国語による会話体験、(2)異文化体験・交流セッション、(3)日本文化体験、(4)異文化レクチャー、(5)ランチタイム・リーディング、(6)その他、などがある。(1)では、英語だけではなく、第二外国語開講科目のドイツ語や中国語による活動、および韓国語などの会話体験も行っており、言語の多様性や互いの言語への配慮を学ぶ機会としている。

運用としては、活動を案内するスケジュール表やポスターを月初めに「学科共通」掲示板および電子掲示板に掲示し、学生たちがその案内を見て自主的に活動に参加する方法を取っている。参加者は、ポイントカードでポイントを得るというシステムも導入している。現在、4年目を迎え、新1年生を対象としたLS体験ツアーや、掲示板やホーム・ページでのスケジュール周知を行っているが、より多くの学生にLSの存在を伝え、参加を促すことが現在の課題である。そこで本研究では、今後LSの企画を進めるにあたり、より多くの学生にこの学習機会を利用してもらえるよう、また、平成26年4月度からの1年生対象科目である「総合英語1、2」と「基礎英語1、2」受講者へのLS参加必修化に備えるべく、スケジュールリングに関する調査を行った。

2. 本調査について

本章では、調査目的、研究課題(リサーチクエスチョン)、調査対象・期間・方法および手順に関して述べる。

2.1 調査目的

上記で述べたLSの内容や実施日時に関するアンケート調査を行った。アンケートは全5問(Appendix参照)であったが、本調査では、実施スケジュールを改善することによるLS参加率の向上を目的とし、2013年度前期にLSに参加できる曜日と時間帯を問う2番目の質問に対する回答と、学生の2013年前期の履修状況、そして、実際に2013年に行われたLS実績を比較、分析した。これらの結果、学生がLSに参加可能な時間帯を探り出し、今後のスケジュールリングの参考とすることによって、現在より多くの学生がLSに参加できる環境を整えるとともに、平成26年度からスタートする新カリキュラムの一部の基幹科目において、LS参加が成績に含まれることに備えたい。

2.2 研究課題(リサーチクエスチョン)

上記の目的を達成するにあたり、次の2つの研究質問を設定し、比較・分析を進める。

- ① アンケートで学生が参加可能と回答とした時間帯と、履修登録状況のデータによる空き時間は、同じ時間帯であるのか。
- ② 2013年度前期は学生が参加可能な時間帯にLSが設定されていたのか。

2.3 調査対象・期間・方法

調査対象は、2013年前期に「英語演習1」「英語演習3」(共に基幹科目)を履修した学生である。今回、調査対象者を「英語演習1」「英語演習3」履修者に絞った理由として、平成26年度4月からスタートする新カリキュラムの「総合英語1、2」「基礎英語1、2」(共に基幹科目)において、LS参加が成績の一部に含まれることになったためである。対象となった科目の担当教員に依頼し、アンケートツール

³ 「近畿大学外国語教育の目的と共通基本目標—外国語教育マニフェスト—」による。

LimeSurvey⁴を使用して、2013年7月中旬にCALL教室を使用する授業内でアンケートを実施した。

3. 調査手順

調査手順は次の通りである。

- ① アンケートで学生がLSに参加可能であると答えた曜日と時間帯を集計する。
- ② 学生の履修状況のデータをもとに、学生が授業を取っていない時間帯を調べる。
- ③ ①と②の相関係数を算出することにより、データを比較、検証する。
- ④ アンケートの有効回答者数(775名)と、履修状況のデータにある学生数(872名)が異なるため、変数の標準化を行い、学生の参加が見込めると予測される曜日時間帯を調べる。
- ⑤ 2013年度前期の実際のスケジュールと⑤の結果を比較、検証する。

4. アンケートと履修状況の結果

本章では、学生対象に行ったアンケートのうち、LS参加可能な時間帯に関する質問に対する回答(有効回答者数775名)と学生の履修状況に基づいた授業の空き時間のデータ(872名)について説明をする。

4.1 アンケート結果

アンケートの2番目の質問は、「あなたの前期スケジュールを思い浮かべてください。ランゲージスペースに参加可能な曜日と時間帯はいつですか。(複数回答可)」であった。この質問に対する有効回答者数775名分の回答の内訳は以下の通りである。

表1 アンケート質問2に対する回答の内訳

	1限目	2限目	3限目	4限目	5限目	合計
月曜日	290	138	138	207	239	1012
火曜日	151	139	103	155	217	765
水曜日	169	188	213	159	196	925
木曜日	162	83	153	163	141	702
金曜日	149	125	119	163	224	780
合計	921	673	726	847	1017	4184

曜日では、月曜日と水曜日にLS参加可能であると答えた学生が多く、時間帯では1限目と5限目に参加可能であると答えた学生が多かった。累計が4184なので、一人当たり約5.4となり、数字だけで見ると、月曜日から金曜日の間に、約5回はLS参加可能な時間があると言える。曜日と時間帯を合わせると、月曜日の1限目の290人が一番多く、続いて月曜日の5限目、金曜日の5限目、火曜日の5限目、水曜日の3限目に参加可能であると答えた学生が多かった。

4.2 履修状況の結果

学生の履修状況は時間割重複者チェックツールによって出されたもので、各時間帯の授業に履修をしている人数が示されていた。つまり、その時間帯は授業がありLSには参加できないということになるので、

⁴ <http://www.d-ip.jp/limesurvey/> オープンソース Web アンケートシステム LimeSurvey

全体数（872名）から授業の登録をしている人数を減算し、学生の授業のない時間帯を調べた結果が表2である。

曜日では、水曜日と月曜日に授業がない学生が多く、時間帯では5限目と1限目に授業がない学生が多かった。累計が8161なので、一人当たり約5.4となり、数字だけ見ると月曜日から金曜日の間に、約5回は授業がない時間帯があると言える。曜日と時間帯を合わせると、月曜日の1限目の619人が一番多く、続いて火曜日の5限目、金曜日の5限目、月曜日の5限目、水曜日の5限目に授業がない学生が多い。

表2 授業がない時間帯

	1限目	2限目	3限目	4限目	5限目	合計
月曜日	619	193	167	347	468	1794
火曜日	345	286	179	281	517	1608
水曜日	353	285	240	219	447	1844
木曜日	393	130	259	254	329	1365
金曜日	295	331	197	256	471	1550
合計	2005	1225	1042	1357	2232	8161

4.3 相関係数

アンケート結果で得られた数値と時間割重複者チェックツールによる履修状況のデータの数値との相関係数は0.823914であり、相関性があると考えられる。つまり学生が、「LSに参加可能である」と答えた曜日と時間帯と、授業がない時間帯には関連性がある。

4.4 変数を標準化した結果

アンケートの有効回答者数（775名）と、履修状況のデータにある学生数（872名）が異なるため、変数を標準化したものが以下の表である（数値は小数点第3位を四捨五入）。数値が大きいほど、LS参加の可能性が高くなる。この表を見ると、やはり、より多くの学生の参加が見込める曜日・時間帯は月曜日の1限目、月曜日の5限目、金曜日の5限目、火曜日の5限目となる。

表3 アンケートと履修状況のデータの数値を標準化した結果

		1限目	2限目	3限目	4限目	5限目
月	アンケート	2.75	-0.64	-0.64	0.86	1.56
	履修登録	2.56	-1.02	-1.24	0.27	1.29
火	アンケート	-0.36	-0.62	-1.40	-0.27	1.08
	履修登録	0.26	-0.24	-1.14	-0.28	1.70
水	アンケート	0.04	0.45	1.00	-0.18	0.62
	履修登録	0.32	-0.25	-0.63	-0.80	1.11
木	アンケート	-0.12	-1.84	-0.31	-0.10	-0.57
	履修登録	0.66	-1.55	-0.47	-0.51	0.12
金	アンケート	-0.40	-0.92	-1.05	-0.10	1.24
	履修登録	-0.16	0.14	-0.99	-0.49	1.31

5. 2013 年度前期の LS 実施状況

2013 年度に行われた LS の種類は 2 つに分けられる。1 つはほぼ毎日行われている英語の LS、もう 1 つはドイツ語、中国語、日本文化、留学体験発表などが含まれる LS である。ここでは、2013 年度前期にこれらの LS が何曜日のどの時間帯に実施されたのかについて説明する。

5.1 英語の LS 実施状況

2013 年度前期に英語の LS プログラムが実施された曜日と時間帯は次の通りである。

表 4 2013 年度前期英語 LS プログラムの実施状況

	1限目	2限目	3限目	4限目	5限目	合計
月曜日	0	3	2	3	3	11
火曜日	0	2	4	3	3	12
水曜日	0	3	5	3	0	11
木曜日	0	5	2	1	4	12
金曜日	0	0	5	4	2	11
合計	0	13	18	14	12	57

※担当講師のスケジュールの関係上、一部の時間帯で不開講となっている。

スケジュールが多く組まれていた曜日・時間帯は、水曜日 3 限、木曜日 2 限、金曜日 3 限の 5 回、次いで火曜日 3 限、木曜日 5 限、金曜日 4 限の 4 回であった。曜目的にはどの曜日にも 11～12 回と平均的にスケジュールリングがされているが、1 番多くスケジュールリングされていた時間帯は 3 限 18 回で、1 限目に英語の LS は実施されなかった。

5.2 英語以外の LS 実施状況

2013 年度前期に英語以外の LS プログラムが実施された日時は次の通りである。

表 5 2013 年度前期英語以外の LS プログラムの実施状況

	1限目	2限目	3限目	4限目	5限目	合計
月曜日	0	0	0	0	0	0
火曜日	0	0	1	0	0	1
水曜日	0	1	4	2	1	8
木曜日	0	1	9	9	3	22
金曜日	0	1	0	0	0	1
合計	0	3	14	11	4	32

木曜日 3 限と木曜 4 限が圧倒的に多く 9 回、次に水曜日 3 限の 3 回、木曜日 5 限の 2 回が多かった。曜目的には木曜日に集中しており、時間帯では 3 限 4 限に多くのプログラムが実施されていたことがわかる。英語と同様、1 限目に英語以外の LS も実施されなかった。

6. 考察

アンケート及び履修状況の調査の結果、1 限・5 限を中心として、学生が LS に参加可能である時間帯を

把握することができた。また、今回は、アンケート調査と履修状況の調査を並行して行ったが、両者の相関係数がある程度高かったため、今後は履修状況の調査を行うことで、学生の参加可能な時間帯を割り出すことが可能であると考えられる。

しかしながら、1限・5限について、学生の参加が「可能である」ということと、実際に学生がその時間帯に集まり易いかという点を同一と見ていかについては、考える必要がある。本学部の遠方から通学する学生が多いという特性上、当該時間帯にLSを実施するということが、本当にLSの参加者を増加させるということにつながるのか、という点について、今後さらに追跡調査を重ねる必要があると言える。

英語以外のLSのスケジュールについて、現在は担当講師のスケジュールの関係上若干偏った配置となっているが、今回の調査も踏まえて、今後は様々な学生が来やすい時間帯に設定していくことも検討していかなければならないと考える。

LSにおいては、「留学報告会」等、臨時の活動が開講されることがあるが、このような講座については、学生の集まり易い時間帯に設置することで、多くの学生の活動を見込むことができると考えられる。

7. 結論

学内の1室で授業外行っているLS活動への参加率の向上を目指し、実施スケジュールの改善という視点から、以下の2点の研究課題（リサーチクエスチョン）を立てて、アンケート調査を行った。

① アンケートで学生が参加可能と回答とした時間帯と、履修登録状況のデータによる空き時間は、同じ時間帯なのか。

② 2013年度前期は学生が参加可能な時間帯にLSがあったかどうか。

まず、①に関しては、学生が参加可能な時間帯と履修登録上の空き時間は同じだったといえる。したがって、今後LSのスケジュールに当たっては、登録者状況のデータが参考になると考えられる。

次に、②に関しては、アンケートや登録者状況の結果と、実際に行われたLSのスケジュールを比較した。部分的に参加可能な時間帯にLSがあったが、必ずしも学生の都合のよい時間帯ではなかったかもしれない。英語のLS活動は毎日あること、その上、曜日に偏りがないように組まれているという理由にもよると思われる。ある程度は仕方がないが、留学生の報告会など、単独開催のものを企画する場合には、履修登録者のデータがある程度参考になると思われる。

今回の調査をもとに、より多くの学生がLS活動に参加できるよう、検討や工夫を重ねていきたい。なお、今回の調査対象ではないが、実際には3・4年生や大学院生も現在ランゲージスペースを利用している。したがって、次回の調査では、時間割重複者チェックツール等を使っての大学院生を含む全学年の調査、また、実際の参加者数を統計的に利用した調査に着手できればと考えている。

謝辞

本調査を行うにあたり、アンケート調査にご協力いただいた「英語演習1」、「英語演習3」の多くの受講生および担当講師の皆様、履修登録状況のデータを準備していただいた事務部の皆様に、御礼申し上げます。

参考文献

- (1) 服部圭子 (2013) 理系学部における授業外の言語文化活動ーB.O.S.T. Language Space の実践報告ー、近畿大学教養・外国語センター紀要 (外国語編)、第3巻 第2号、pp.155-167、近畿大学
- (2) 細川英雄・西山教行編(2010)『複言語・複文化主義とは何かーヨーロッパの理念・状況から日本における受容・文脈化へ』くろしお出版

英文抄録

A Survey to Facilitate Students' Attendance of Language Space - For Better Schedule of Language Space -

Yumi HASEGAWA¹, Keiko HATTORI² and Naoki SAKATA³

To increase the number of students participating in "Language Space," two surveys were conducted to determine which periods they are more likely to come: a) an on-line questionnaire asking students which periods they can come; b) analysis of 1st- and 2nd- year students' registration data. The results show that the two surveys show the similar tendency, indicating that students' registration information is relatively useful data for grasping students' overall probability to participate in LS. However, the results showing that 1st- and 5th- periods are good for students should be carefully interpreted because these periods may be possible but may not be feasible for students to come to LS, since many students commute long distance. This is virtually the first attempt to grasp students' probability to participate in LS. Its activities have not been necessarily conducted now on the periods this study found students are likely to come, but in the future, we may have to arrange LS schedule based on students' weekly schedules.

Key words : BOST Language Space, Questionnaire survey, Facilitation of students' attendance.

Appendix :

〈ランゲージスペースに関するアンケート〉

ランゲージスペースは近畿大学生物理工学部にある外国語や異文化を学べるスペースです。

皆さんもご存知の通り、ランゲージスペースは10号館多目的室で外国語や異文化イベントなどを行っています。この度、より多くの学生さん楽しくランゲージスペースを利用してもらえるように、アンケート調査を実施することにしました。ご協力のほど、お願いいたします。このアンケートは全部で5問あります。

ランゲージスペース

1. General Education Division, Faculty of Biology-Oriented and Technology, 930 Nishimitani Kinokawashi Wakayama, Japan 649-6493
2. General Education Division, Faculty of Biology-Oriented and Technology, 930 Nishimitani Kinokawashi Wakayama, Japan 649-6493
3. General Education Division, Faculty of Biology-Oriented and Technology, 930 Nishimitani Kinokawashi Wakayama, Japan 649-6493

1. 学籍番号を書いてください。(ハイフンなどは入れずに、数字だけで記入してください。)
2. あなたの前期スケジュールを思い浮かべてください。ランゲージスペースに参加可能な曜日と時間帯はいつですか。あてはまるものを全て選んでください(複数回答可)。

- () 月曜日 1 限目
- () 月曜日 2 限目
- () 月曜日 3 限目
- () 月曜日 4 限目
- () 月曜日 5 限目
- () 火曜日 1 限目
- () 火曜日 2 限目
- () 火曜日 3 限目
- () 火曜日 4 限目
- () 火曜日 5 限目
- () 水曜日 1 限目
- () 水曜日 2 限目
- () 水曜日 3 限目
- () 水曜日 4 限目
- () 水曜日 5 限目
- () 木曜日 1 限目
- () 木曜日 2 限目
- () 木曜日 3 限目
- () 木曜日 4 限目
- () 木曜日 5 限目
- () 金曜日 1 限目
- () 金曜日 2 限目
- () 金曜日 3 限目
- () 金曜日 4 限目
- () 金曜日 5 限目

3. ランゲージスペースでどのような内容のものに参加したいと思いますか。あてはまるものを全て選んでください(複数回答可)。

- () 英語会話
- () ドイツ語会話
- () 中国語会話
- () その他の外国語の会話
- () 英語の資格試験
- () ドイツ語の資格試験
- () 中国語の資格試験
- () その他の外国語の資格試験

- () 外国の文化 人々の日常生活
- () 外国の文化 食文化
- () 外国の文化 教育／学校生活
- () 外国の文化 伝統芸能／伝統文化
- () 外国の文化 建築物
- () 外国の文化 歴史
- () 外国の文化 宗教
- () 外国の文化 交通（電車、船、バスなど）
- () 外国の文化 美術／芸術
- () 外国の文化 スポーツ
- () 外国の文化 アニメ／漫画／映画
- () 外国の文化 音楽
- () 外国の文化 小説／雑誌
- () 外国の文化 ファッション
- () 外国の文化 自然／動物／植物／環境
- () 外国の文化 医療／福祉
- () 留学経験者の話
- () 日本文化
- () 日本にいる留学生の話
- () その他：

4. あなたはどこの国の言葉や文化に一番関心がありますか。国名を1つ書いてください。

5. 近畿大学では英語の他に、ドイツ語、中国語を学ぶことができますが、もし、他の外国語が学べるとしたら、どこの国の言葉を学びたいですか。以下からひとつだけ選んでください。選択肢の中に学びたい外国語がない場合は、その他をチェックし、具体的にその言語を書いてください。

- () フランス語
- () スペイン語
- () イタリア語
- () ロシア語
- () 韓国語
- () その他

